

平成29年3月1日

浜田市議会議長 西田清久 様

議員名 上野 茂



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため、視察を実施したので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成29年2月6日（月） 午前7時から
 平成29年2月8日（水） 午後5時まで
2. 視察内容
 - ① 佐賀城公園の整備と歴史館の状況（佐賀市）
 - ② 唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題（唐津市）
 - ③ 福岡城址の整備状況（福岡市）
2. 視察先 佐賀県庁・佐賀城公園・佐賀城本丸歴史館
 唐津市舞鶴公園・唐津漁港市場・福岡市大濠公園
3. 調査経費 一人当たり 22,408円

 （経費内訳 レンタカー代金・ガソリン代・高速料金・宿泊費）
4. 調査研究活動の概要

別紙



（１）視察に至った経緯

浜田市は開府 400 年に向けて、城山公園の整備や「浜田歴史資料館」を今年度から事業に取り組むとしており、これまで「浜田城周辺整備検討会」において検討されてきた。今必要なのか？財政的に大丈夫か？市民の声を聴いても心配する声が多い中、会派創風会 8 名で佐賀城公園にある佐賀城本丸歴史館の状況 2 日目には唐津市舞鶴公園、唐津漁港市場での唐津漁港高度衛生管理型市場の整備、3 日目は福岡城址の整備状況を視察した。

（２）研修内容

① 佐賀城公園の整備と歴史館の状況（佐賀市）

佐賀県佐賀土木事務所田崎茂樹所長

佐賀県佐賀土木事務所街路公園課野口欣也課長

佐賀県立佐賀城本丸歴史館企画学芸課藤井祐介学芸員

県庁内において県の職員さんから今までの経緯等説明を受け、屋上階の展望台からと復元された堀などみたあと現地での説明を受けた。

都市計画決定面積 33.3ha 開園区域 28.8ha で公園内に、県立図書館、県立博物館、県立美術館、市村記念体育館、佐賀城本丸歴史館、佐賀城鯨の門などがある。佐賀城は 1602 年鍋島直茂・勝茂によって築城され、平城、天守台 4 重であった。

平成 19 年に、20 年かけて「佐賀城下再生百年構想」を策定し、孫の世代まで（100 年後）まで受け継がれるよう品格ある佐賀城下をめざす、自然区間と歴史、住宅地、公共施設との調和、歴史文化と文教機能を強化することを決めた。

本丸北側をにぎわい拠点、街並み再生、ハード整備として二の丸広場、レトロ館、東濠の復元、ソフトめんと祭りイベント、そしてさがレトロ館そして民間によるカフェレストラン、濠はホテルとハスの再生へ取組んだ。

又、建造中の鍋島直正公の銅像再建（8m）は募金によって、平成 29 年 3 月 4 日除幕式をするとのことであった。

現在進められている、東濠工事は元の赤石護岸の復元をし、舟揚げ場の復元もできており今後はさらに掘り進めもとの濠を復元するとのことである。

公園内にある歴史資料館は昭和 58 年に建設意向を表明し、平成 10 年佐賀市長が「本丸遺構と一体となった歴史資料館の建設」の要望を県にし、平成 16 年 8 月「佐賀県立佐賀城本丸歴史館」開館した。

佐賀藩 35 万石、外様大名で 8 番目の規模で、本丸歴史館は、十代藩主鍋島直正が 1838 年に再建した本丸御殿を忠実に復元した日本最大級の木造建築物



佐賀県の職員さんから佐賀城公園の整備状況の説明を受ける



佐賀城本丸歴史館の学芸員さんから全体模型を見ながら説明を受ける様子



佐賀県議会議事堂 1 階での
参加メンバーの集合写真

5. 所感（佐賀県庁・佐賀城公園・佐賀城本丸歴史館 唐津市舞鶴公園・福岡市大濠公園）

浜田市が取り組んでいる、「城山整備事業」と「歴史資料館建設」同様の事業をしてこられた先進地として視察を行ったものです。

初日、県が進めてきた佐賀城公園・佐賀城本丸歴史観について県の職員さんから説明を受けたその後公園内の施設を見学した。2006 年県が策定した佐賀城下再生百年構想において進められようとしている堀の復元などこれまで地元住民と協議し進められてきた、面積が広く整備する場所を絞り今も堀の再現などの工事がされていた。広い公園に歴史資料館が立派に整備され参考になったが、県が直営で運営されており、入場料は無料とのことで、浜田市も県と協力してできないものかと感じた。

翌日、唐津舞鶴公園を視察した。立派な城があったが工事中のため入れなかった。公園内の売店などには多くの外国の方がおられ、店の方に聞くと中国や台湾・韓国の方が多く来られるとのことでした。

3 日目福岡城址大濠公園を視察した。城はなく福岡市を眺める展望台そしてきれいに整備された樹木や石垣、観光客はいなく城があるかないとでは大きく違うことを感じた。

唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題

佐賀県産業労働部流通通商課中西昭成係長
株式会社唐津魚市場常務取締役木下泉氏

浜田市産業経済部漁港活性化室石田室長・戸津川係長・田中主事

浜田市都市建設部建築住宅課佐古係長・平野技師の 5 人との合

同視察

浜田市は外来船誘致を推進し、魚価を維持・向上させるために、（仮称）高度衛生管理型荷捌所や冷凍冷蔵庫の整備などの事業を進めようとしており、まだ整備率が 100%ではないが今稼働中の唐津魚市場を視察した。

国土交通省平成 20 年→衛生管理型市場の整備—水産物の国際競争力の強化と力強い産地づくりの推進のため、水産物の流通拠点となる漁港で取り扱われ

る水産物のうち高度な衛生管理対策の下で出荷される水産物の割合を23%から50%に向上させる目標を表明された、

「唐津港まき網市場」改修整備の状況—ネットを使用した開放型で、床の清潔を保つ、床面の傾斜化とコーティング、セリ城内への車両進入防止構造、鳥糞による汚染の防止、衛生確保のための濾過殺菌海水供給施設の設置、施設洗浄のための十分な海水供給量の確保、営業しながらの工事のため3区画分けて改修、総事業費18億1千6百万円、事業主体は佐賀県で（株）唐津魚市場の年間使用量1500万円、管理委託料年間400万円、水揚げ手数料4.5%、箱代120円、水揚げ高34億5千万円、水揚量2万3千6百トンである。

設計は実績のある会社に頼み、事業期間平成26年～28年、LED使用
佐賀港巻き網市場を高度衛生管理型に改修することにより、かつては九州一不衛生と言われた唐津港、今後、安全安心のブランド化を図り、水揚げ量シェアを確保することを目的に改修する。

自動選別機3台だが、実質2台稼働、一台につき30人の人員必要、人材確保が困難と言われた。

夏場の体感温度は以前より5度下がるそうです。

所感

県が事業主体になり2014年に着工し完成したところから順次、水揚げや選別作業をしておられる。場内への車両進入禁止、床面のコーティングや傾斜化で水はけを向上させた。さらに鳥獣の侵入を防ぐためネットを配備、出入り口の扉は自動開閉式で靴も消毒し衛生管理の向上を図っておられる。関係者の声を聴くことができなかったが当時の資料では、多くの金をかけるより「獲れる漁業、育てる漁業に取り組んでほしい」「破たんした水産会館の二の舞はやめるべきだ」いわば水産型公共事業として、ムダな事業になるのではと心配もされたそうです。浜田市の職員の方も説明を受けておられ、専門的な質問をしておられ熱意を感じたが、資料館と同じくこちらも県の事業主体は佐賀県であった。



唐津魚市場のコーティングされた床面を視察



唐津魚市場前での
参加メンバーの集合写真